

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	277070123
法人名	有限会社 すずらん
事業所名	グループホーム らん
訪問調査日	平成20年2月14日
評価確定日	平成20年3月12日
評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	277070123
法人名	有限会社 すずらん
事業所名	グループホーム らん
所在地	大阪府河内長野市原町3-5-21 (電話) 0721-53-5080

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	大阪府中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号
訪問調査日	平成20年2月14日
評価確定日	平成20年3月12日

## 【情報提供票より】(平成20年1月15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	15 人	常勤 5人, 非常勤 10人, 常勤換算	9.15人

### (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り
	2階建て 1 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	33,000 円	
敷金	有( ) 円 ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 180,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	○有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,000 円			

### (4) 利用者の概要(1月15日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1		名	要介護2	3 名	
要介護3	2 名		要介護4	3 名	
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均 83.1 歳	最低 73 歳	最高 93 歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	追矢クリニック 高安歯科 兵田病院 らん訪問看護ステーション
---------	--------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームらん」は、河内長野市役所近くに平成17年5月に設立されたワンユニットの潇洒な洋館風の建物の中にある。玄関前から広々とした手すりのあるスロープがあり、スムーズに駐車場に出ることができる。建物正面の庭、南側にはベンチが設置され利用者の外気浴の場として、憩いの場として提供されている。理念として「入居者一人一人の人格を尊重し、家族的な個別ケアを通じて入居者にごく当たり前の暮らしを続けて頂くことを共通の目標といたします」と掲げている。運営者は、質の高いサービス提供には職員数のゆとりは不可欠と、収益を度外視した人数の採用をしている。玄関は施錠せず自由に出入りができ、近隣の方々のご協力を得て一人で外出帰宅する利用者もいる。また、併設訪問看護ステーションと連携し、終末期ケアへの対応も出来ている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題①日当たりのいい場所にベンチの設置②玄関の階段横の手すり。③日誌の記録④年度研修計画の作成の4点であったが施設としても職員全員の努力によりほぼ改善されている。なお②については階段横にスロープを設け手すりが付けられているので現在のところ階段に手すりをつけるということは検討中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の意義を職員全員に周知徹底を図りながら自己評価に取り組み、サービスの質の向上に努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	3~4ヶ月に一度、自治会長、民生委員、市介護高齢課、地域包括支援センター、家族、職員による運営推進会議を開催、施設のサービス内容や外部評価、事業計画やその進捗状況、勉強会の内容などを報告、意見交換をしサービスの質の向上に努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者個々の健康状態は、「らん通信」で平素の暮らしぶりや職員の異動も含めて写真入りで詳しく報告している。施設全体の活動内容は年4回「らんだより」を発行し定期的にきめ細かな報告がされている。また、運営推進会議に、家族全員に呼びかけたり、工夫されたアンケート形式の意見箱の設置をするなど、意見を表せる機会を可能な限り作り、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の夏祭りや文化祭、また保育園へも出向いて行って行事に積極的に参加、地域との交流を深めることに努めている。去年は雑巾を100枚縫って近隣の保育園に贈呈し大変喜ばれたそうである。利用者がボランティア活動をし社会に貢献している。また、定期的にフラダンス、歌体操、学習教室などボランティアの訪問もあり、地域の人々が気晴らしの支援に参加している。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者一人一人の人格を尊重し、家族的な個別ケアを通じて入居者にごく当たり前の暮らしを続けて頂くことを共通の目標といたします」を理念として掲げ、地域とのつながり、人間関係等当たり前の生活を続ける事を目標として取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念である「ごく当たり前の生活…」の実践に向けて、振り返りながらその都度理念を確認し日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りや文化祭、また保育園へも出向いて行って行事に積極的に参加、地域との交流を深めることに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義を職員全員に周知徹底を図りながら自己評価に取り組み、サービスの質の向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、施設のサービス内容や外部評価、事業計画やその進捗状況、勉強会の内容などを報告、意見交換をしサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	河内長野市内の事業所が2ヶ月に一度「ケアネットワーク会議」を市役所の担当者も同席の上開催、意見交換を行い共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者個々の健康状態は、「らん通信」で平素の暮らしぶりや職員の異動も含めて写真入りで詳しく報告している。また、施設全体の活動内容は年4回「らんだより」を発行し定期的にきめ細かな報告がされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に、家族全員に参加を呼びかけたり、工夫された意見箱の設置をする等意見を表せる機会を可能な限り作り、運営に反映させるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設は1ユニットになっているので、職員は固定化され顔馴染みの職員によるケアがされている。また、やむを得ず職員の離職により職員が代わる際には、引き継ぎの期間を充分にとり、利用者の不安を最小限に抑えるように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修は、職員から学びたいことのアンケートをとり、年間計画を作成し、管理者指導で実施している。外部研修も情報を収集、積極参加を勧め質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	河内長野市の「ケアネットワーク会議」や近隣市町村グループホームとの交流会を定期的で開催、意見交換を通じて学習しサービスの質の向上に向けた取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が施設の見学に来られたときには、利用者の方々と共にお茶を飲むなど団欒の場をつくることから始め、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の生活を、共に笑い、共に泣き、共に支え合う、家族のような関係を築く努力をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、本人や家族から暮らし方につき意見や希望を聞いている。また、日々の関わりの中でも気づきがあればその都度記録し思いや希望に添えるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族との日々の関わりの中で要望や意見を聞き出し、職員間で検討、個別の見直しをし、介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間毎は勿論のこと、それ以外でも利用者の状況の変化に応じて、本人、家族等と話し合い、随時介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者と家族が安心して暮らしていくために必要な支援、外泊支援や以前からのかかりつけ医への受診のための移送支援などもしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、必要に応じて本人・家族等の希望の専門医や以前からのかかりつけ医への受診も支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の在り方について、本人・家族とかかりつけ医を交えて話し合いを行い意志確認書を作成している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	研修会や職員会議毎に、利用者一人ひとりのプライバシーや誇りを傷つける事のないよう、言葉かけや対応への配慮の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合によってスケジュールを立てるのではなく、利用者の生活のリズムや意志を尊重しながら個別性のある支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューは、利用者と共に料理本から選んだりスーパーで好きな食材を選んだりしながら決めている。食事作りや後かたづけについても、利用者の持てる力に合わせて参加してもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日何時でも入浴できるよう、また一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴の中から役割、楽しみ事を見つけ出し、縫い物・買い物・料理など気晴らしの支援をしている。また、その経験や知恵はボランティア活動にも発揮してもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見・夏祭り・紅葉狩りなどの行事の他、近隣の喫茶店や美容院などに協力頂いて、利用者一人ひとりの希望に添った外出支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	設立当初から身体拘束ゼロに取り組み、施錠はしていない。徹底した職員の見守りで、安全面に配慮した自由な暮らしを支えるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導により日中・夜間を想定した避難訓練を地域の人々の協力を働きかけながら定期的実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや摂取カロリーをチェック、考慮しながら嗜好に合わせた調理を行い、一人ひとりの状態や習慣に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的には、木の温もりのある家庭的な落ち着いた雰囲気である。日差しはレースのカーテンで調整、居間は季節の花をさり気なく活けるなど居心地良く過ごせる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みに応じた家具や調度品が持ち込まれている。また、室内の家具や調度品の配置も本人の暮らしていた雰囲気に合うようにするなど細やかな工夫がされている。		